

胃がん治療認定施設に

徳大病院、基準厳しい「A」

徳島赤十字病院「B」

高レベルの胃がん治療を行っているとして、徳島大学病院（徳島市）が日本胃癌学会の認定施設に選ばれた。認定制度は新設されたばかりで、最も基準が厳しい「認定施設A」になったのは県内では徳大病院のみ。四国では5病院、全国では127病院が認定された。

現在、胃がんの治療はステージに応じて外科的、内科的治療などの選択肢が増え、高度化している。学会は、専門的治療ができる病院に患者を集約して高度な治療を行うため、認定制度を導入した。

認定施設にはAとBの2種類があり、Aの方が基準が厳しい。外科的治療と内科的治療の両方が充実している必要がある。関係する各学会に所属する専門医の

数や、胃がんに対する外科的治療の実績など14項目を満たす必要がある。同病院では全ての項目で認定施設Aの基準を大きく上回っている。各学会に所属する専門医の数では、認定基準が「2人以上」の消化器内視鏡専門医が20人、消化器外科専門医が19人、「1人以上」の日本内視鏡外科学会の技術認定取得者が11人などとなっており、在籍者数はいずれも認定基

準の7〜11倍。

過去3年間の治療実績では、外科的胃切除術が186例、内視鏡切除術が275例、化学療法が135例で、認定基準となる60例をそれぞれ大幅に超え、県内随一の実績となっている。

徳大大学院消化器内科学分野の高山哲治教授は「外科治療のみならず、内視鏡や抗がん剤治療の分野にもスペシャリストがいる。患者に寄り添いステージに応じた治療をしていく」と話した。

このほか、県内では認定施設Bに徳島赤十字病院（小松島市）が認定された。

（佐藤聡美）